

戦略の推進にあたって

みんなで進める地方創生

本戦略では、5つの基本目標と2つの横断的な目標を設定し、それぞれに数値目標やKPIを置きながら、施策の進捗を客観的に検証していきます。今後は、PDCAサイクルにより効果検証と改善を重ねながら、実効性のある戦略として推進していきます。



地方創生は、行政だけで実現できるものではありません。

住民一人ひとりが地域に関心を持ち、
地域団体や事業者がそれぞれの立場で力を発揮し、
行政がそれらをつなぎ、支えることで、白浜町の未来は形づくられていきます。

白浜町ならではの魅力を磨き上げ、
“住んでよい、訪れて楽しいまち”を、次の世代へ――

第3次白浜町
まち・ひと・しごと創生総合戦略

概要版

発行年月: 令和8年3月
発行: 白浜町役場 総務課
〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1600番地
TEL: 0739-43-6598

第3次白浜町 まち・ひと・しごと創生 総合戦略

概要版

白浜町の好循環を、次のステップへ――

令和8年3月
白浜町

はじめに / 総合戦略の役割

まちの未来を見据えて

白浜町では、これまで、温泉や白良浜をはじめとする豊かな自然・観光資源、歴史や文化、地域産業などの強みを活かしながら、地方創生の取り組みを進めてきました。こうした取り組みの積み重ねにより、町への愛着や住みやすさ、白浜町らしい魅力に対する評価や期待の高まりがうかがえる状況にあります。

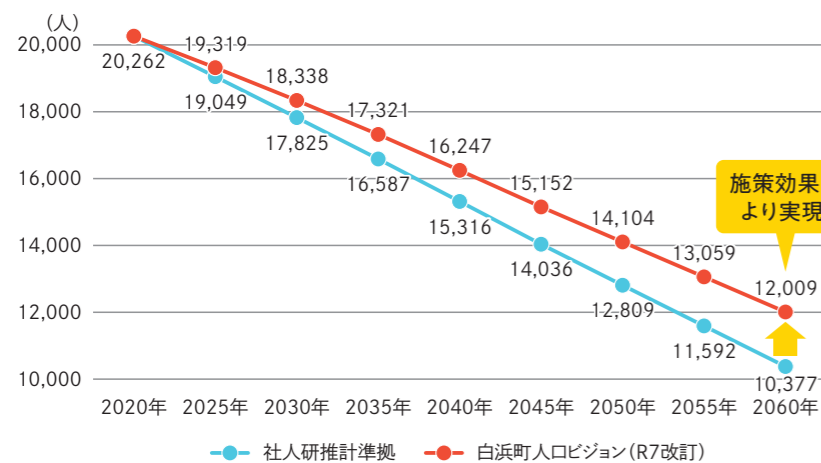
一方で、本町の人口は、1975年の26,617人をピークに減少傾向が続いており、少子高齢化も進行しています。近年は転入超過の傾向もみられるものの、その背景には外国人住民の転入も含まれており、若い世代の定着や若い世代の呼び込みという点では、なお課題が残されています。

第3次白浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、こうした人口動向や地域課題をふまえながら、白浜町の強みをさらに磨き上げ、地域の活力を高めていくための基本的な指針となります。

計画期間は、令和8(2026)年度から令和12(2030)年度までの5年間としています。



将来に向けた人口の目標



「白浜町人口ビジョン(令和7年度改訂版)」では、本町の实情に即した人口減少対策を講じることにより、2060年に12,000人程度の人口水準を維持することをめざしています。総合戦略は、その実現に向けて、まち・ひと・しごとの好循環をつくり、持続可能な地域づくりを進めるものです。

白浜町の現状と課題

いま、白浜町に求められていること

白浜町では、若い世代が進学や就職などを機に近隣市町や大都市圏へ転出する傾向が続いています。就職期には一定の転入もみられるものの、若年層に限ってみると転出が上回る状況があり、とりわけ女性の転出超過が将来の人口動向にも影響する要因となっています。

また、出生数が死亡数を下回る状況が続き、自然減の影響が大きくなっています。合計特殊出生率は人口置換水準を下回って推移しており、若い世代の定着や子育てしやすい環境づくりが、これまで以上に重要になっています。

その一方で、アンケート調査からは、白浜町への愛着や住みやすさに対して好意的な評価が多く、自然環境、歴史文化、レジャー・観光施設といった地域資源への評価・期待が高いことが明らかになっています。こうした白浜町ならではの魅力を、雇用、定住、子育て、暮らしの基盤の充実へと結びつけていくことが求められています。

めざす方向

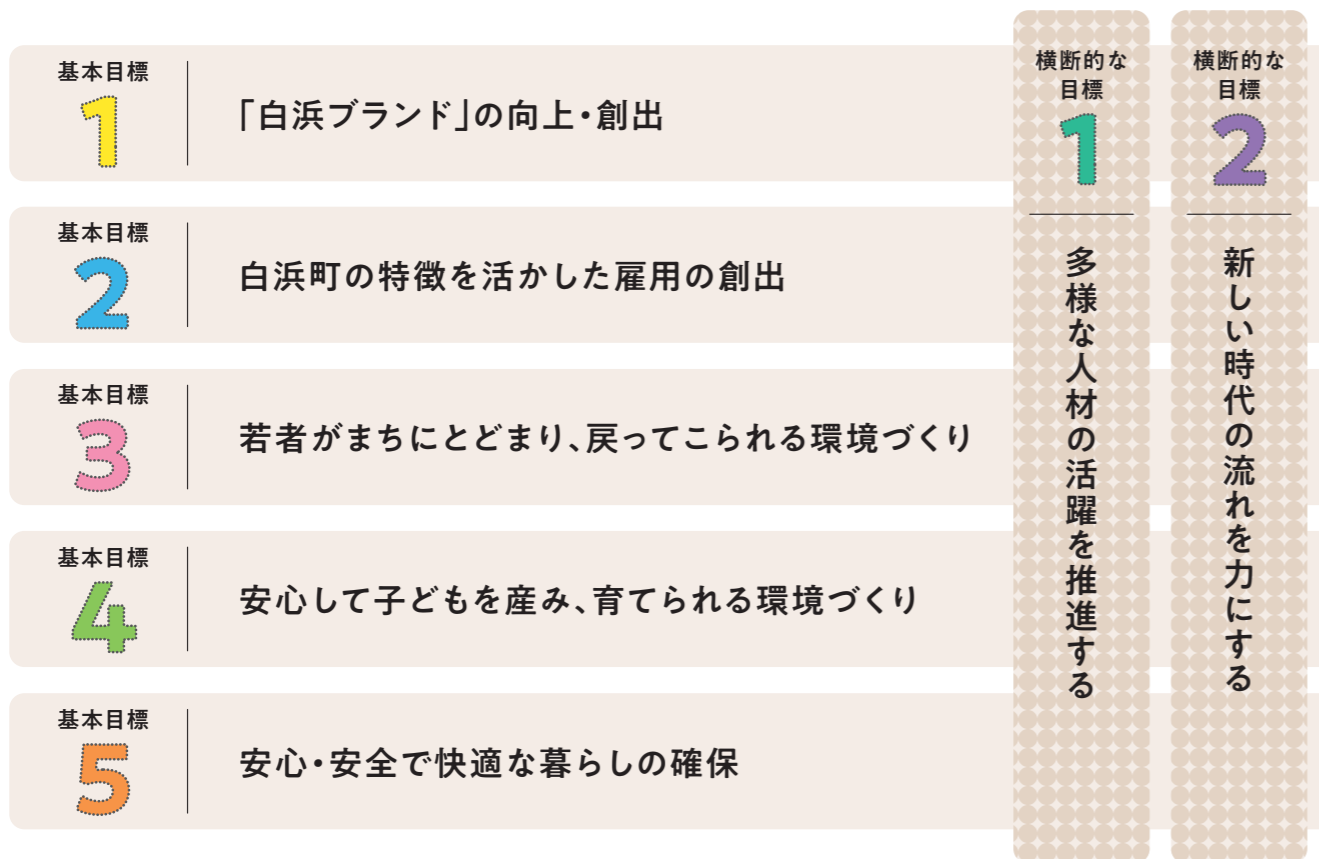
白浜町ならではの自然・観光資源やブランド力を活かしつつ、安定した雇用や働きがいのある仕事、交通や買い物・医療などの生活基盤、結婚・出産・子育てへの切れ目ない支援に総合的に取り組むことにより、若者が町にとどまり、将来のライフステージの変化の中でも「戻ってきたい」と思えるまちづくりを進めます。



戦略の全体像

5つの基本目標と2つの横断的な目標

本戦略では、人口減少に歯止めをかけながら、地域の持続的な発展につなげていくため、5つの基本目標と2つの横断的な目標を設定しています。



白浜町ならではの好循環へ

観光や地域産業の振興によって「しごと」を生み出し、若者やファミリー層に選ばれる環境を整えることで「ひと」を呼び込み、安心して暮らせる住環境や生活基盤の充実によって「まち」の魅力を高めます。

これらを一体的に進めることで、白浜町ならではの「まち」「ひと」「しごと」の好循環を確立し、持続可能な地域づくりにつなげていきます。

基本目標

1 「白浜ブランド」の向上・創出



白浜町の人口目標を達成するためには、まず、若者が生計を立てられるような「しごと」を創出することが重要です。その中でも、本町の経済活動の軸である観光の振興は、最も重要な柱の一つです。既に確立している「白浜ブランド」のさらなる向上と、新たな魅力の創出により、交流人口の増加や地域経済の活性化につなげます。あわせて、観光関連産業と農林水産業、地場産業との連携を強化し、産業全体の活性化を図ります。

主な取り組み

観光プロモーションの推進

観光資源の創出・活用

観光情報の発信強化

観光ネットワークの形成・連携

広域連携

数値目標

観光入込客数

3,184,528人 (令和6年) ▶▶▶ **3,500,000人** (令和12年)

基本目標

2 白浜町の特徴を活かした雇用の創出



近年、本町では社会動態の改善がみられるものの、若い世代の転出はなお続いています。そこで、観光の振興に加え、農林水産業、商工業等の振興や地域産業の連携を進めることで、産業全体の活性化と町内雇用の拡大を図ります。川添茶、日置川アユ、紀州クエ、熊野牛などの地域資源の高付加価値化やブランド化を進めながら、地域経済を支える仕事づくりを進めます。

主な取り組み

農林水産業の振興

商工業等の振興

地域産業の連携

6次産業化等の推進



数値目標

白浜町の総生産額

717億円 (令和4年) ▶▶▶ **789億円** (令和9年)

3 若者がまちにとどまり、戻ってこられる環境づくり



人口減少に歯止めをかけ、活力あるまちづくりを進めるためには、「しごと」の創出に加えて、本町に「ひと」、特に若者を呼び込むことが必要です。そのため、本町出身者のUターンの推進と、新たな若者のJ・Iターンの推進を図ります。

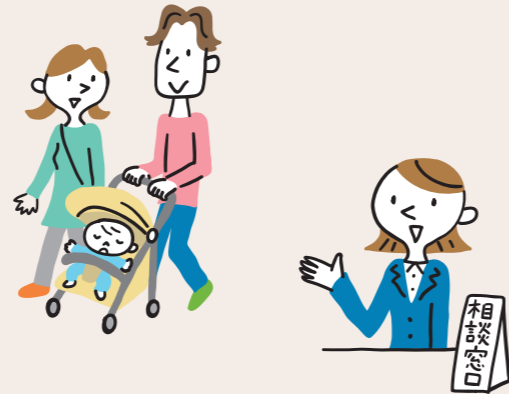
白浜町は、豊かな自然環境を有するとともに、京阪神方面へのアクセスにも恵まれています。こうした魅力を活かしながら、移住・定住に向けた情報発信や相談体制の充実、空き家の活用、就職支援などを進め、若者の定住と還流を後押しします。

主な取り組み

移住・定住の促進

空き家の活用

「しごと」の創出



数値目標

直近5年間の転入超過累計

133人 (令和3年~令和7年) ▶▶▶ 150人 (令和8年~令和12年)

4 安心して子どもを産み、育てられる環境づくり



人口減少に歯止めをかけるためには、若者ファミリー層が住みやすい環境づくりと、子どもを産み育てやすい環境づくりが重要です。若者の出会い・結婚への支援、妊娠・出産・子育てに関する支援や相談体制の充実を図るとともに、教育環境の充実や、生涯学習、スポーツ・レクリエーション活動の振興にも取り組みます。ファミリー層に選ばれるまちづくりを進めることで、出生率の維持・向上をめざします。

主な取り組み

出会い・結婚の支援

妊娠・出産に関する支援の充実

子育て支援の充実

教育の充実

スポーツ・レクリエーション活動の振興

図書館の充実



数値目標

合計特殊出生率

1.35 (平成30年~令和4年) ▶▶▶ 1.35 (令和5年~令和9年)

5 安心・安全で快適な暮らしの確保



白浜町に「ひと」を呼び込むためには、その土台となる「まち」が、誰にとっても住みやすいまちであることが重要です。白浜町は、台風や地震による津波などの被害を受けやすい立地にあることに加え、平地が少なく住宅用地が限られているという課題もあります。

そのため、防災対策や日常の安全確保、福祉の充実、住民のまちづくりへの参画の促進とともに、公共インフラの維持・充実、交通ネットワークの充実、良好な住環境の整備を進め、安心して快適に暮らせるまちをめざします。

主な取り組み

防災対策の充実

日常の安全の確保

福祉の充実

協働のまちづくりの推進

公共インフラの維持・充実

交通ネットワークの充実

良好な住環境の整備・充実

具体的目標

地震、津波、風水害、土砂災害から住民の命と財産を守る

横断的な目標

1 多様な人材の活躍を推進する



地方創生をさらに進めていくためには、その基盤をなす多様な人材に焦点を当て、その活躍を推進することが重要です。地域コミュニティの維持・強化を図るとともに、住民、地域団体、事業者など、多様な主体がつながり、支え合いながら地域づくりを進めます。

横断的な目標

2 新しい時代の流れを力にする



AIやICT、IoTなどの新しい技術の活用によるDXの推進、そしてSDGsの理念に沿ったまちづくりを進めることで、地域課題の解決と地域の魅力向上を図ります。白浜町らしい地域資源と新しい技術を組み合わせながら、時代の変化に対応した地方創生を推進します。